

真相はこうだ 東海炭礦紛争事件の 眞の實相判明す

眞の實相判明す

去る一日付本紙上に東海炭礦某専務は好期到れりとはばか
礦争議の真相と題して八月十四日植田警察署に自己腹身の
十四日の乱闘事件を發表し者をして組合幹部が組合員
たるに俄然各方面の反響をにリンチを加へたりと欺詐
呼び起し關係方面より真相し佐藤稲葉兩氏を拘置せし
を正す聲あるに依り更に精めた

密なる實情調査をせし結二、聯盟の關與と暴行まで
果、果然調査方法を誤びよ以上の經過を佐藤氏の妻女
あり眞の實情と甚だしくの泣訴に依り知つた植田勿
懸隔あり亦可成事實を歪曲來地區聯盟當局者は自己加
せる報導なる事判明した、盟の組合内の事件として之
こゝに眞の真相を發表するを不問に付するを許さず幹
と共に植田勿來地區炭礦協部協議の結果直ちに植田署
組聯盟に對し深く陳謝の意大官司法主任に交渉、聯盟
を表示するものである

一、事件發生の原因
八月六日東海炭礦に於て盆 紛争相手及會社側と圓滿解
踊りの櫓の設置問題で平山 決をなさしむべく大昭鑛業
某なる一組合員が青年部長 トラックに聯盟幹部數名同
稻葉和稔の統制に服せず寧ろ東海炭礦に到つた、然
る反抗的なる態度をとつたるに某専務主任以下反動分
事より喧嘩となりたるを勞 子は常會と稱し佐藤以下
組支部長佐藤五藏氏が仲裁首切りを協議中であり、之
し組合員同志の融和を計りて知らず豫て顔知りの故を
たるを豫てより勞組を御用以つて訪れた藤原をソレと
傳せんとして某専務主任以ばかり多數を以つて取りま
下數名の腹身をして反動的き手に手に薪及木刀を以て
態度をどらしめつゝあつた毆打し言語に絶する暴行を

加へた、其の他逃げんごす 連絡なしとも稱すれど事件と云つたのを聯盟が顔を立
る者を象を以つて追ひ無抵 發生の翌日坑夫組合長加藤を一括して渡して貰ひたい
抗なる者を荒縄を以つて之 木氏は逸早く本部に來訪さど云つたなど記事は誠に事
を縛り長時間悶悶するの暴 れ事態を憂慮し、松井政吉實無根で此の点代議士候補
行の極を盡した、會社側は 氏と交渉の橋渡しをさせしにも立つた松井氏の人格を
之を誤認錯覺と稱して居れ 同氏である東海炭礦支部も尊重して同氏に聞いては
ご聯盟側に一名の抵抗者も の問題に到つては某専務主任と聯盟幹部は云つて
なく暴行中被害者が再三來 任の暴力を恐る一般組合員居る、尙一萬五千圓の使途
意を告ぐるも更に耳を藉さ が何んぞ直ちに聯盟と連絡は一錢一厘も不都合なく全
ず暴行せしは明かに誤認さ することが出来ようか、唯部使途を明らかにしてある
つ覺の域を越え公正に判断 某専務主任以下加害者が留由記者は聯盟の態度より全
するも聯盟の介入に依り反 置後新役員が本部を訪れ陳福的に信頼するものである
動行爲のバクローを恐れた も謝せるを付記して大方の判
のと思はれる

三、對策本部の設置
以上の如き事態に對處し聯 盟側では直ちに之を可直の 任以下加害者にして刑事處 田愛之助一派の介入があつ
手にゆだねるご共に飽迄會 分に附せられたる者の責任 だが否やを記者は可成精密
社側の責任を追求する爲植 追求められしは東海炭礦に 調査せるにその事實を發
田町島由に對策本部を設 置の勞組の立場を尊重し 新見する事が出来なかつた
し常磐地方各炭礦勞組に 聲く選ばれた役員に依る 經營は自らの爲にする 週宣傳が
明書を發し事の真相を傳 協議會に委する事とし 爾後の或は聯盟の名をかたる 者の
ると共に東海炭礦顧問松 井 解決を坑夫組合に一 任した存在があつたものが 更に憤
政吉氏に對し交渉を開始し 以て聯盟が個人問題と云 々重なる調査を要する もので
た、會社側は之の對策本 部するものに非らずして 只管ある、要するに本事件は 聯
を勞組の一幹部に依つて 構 東海炭礦の勞組健全なる 聯盟の純正組合運動より 發せ
成された週宣傳すれど當 展を希望した證據と見 做しる動きがたま／＼反 動資本
時加組組合の全幹部及他 炭 得るものである又醫 療費慰家とそれに 迎合せる一部 反
礦勞組幹部が續々と集 籍料對策本部の費用の 請求動分子の暴力に 依つてさま
合し寧ろ青年組合員の 直接は明細書を附し 松井氏に要 さまに報導され 益々複雑か
行動に出る傾向あるを 阻止 求せし松井氏は一 括していきの虚相を 呈したもので
するに幹部が苦勞した程 一 萬五千圓を聯盟に 渡してれど本調査に 依り聯盟の 態
ある又常磐地方坑夫組 本部 一切を聯盟に 任せたもので 度思想も判 然となり聊の 不
並に東海炭礦支部に 何等の 會社が被害者 に個々に 渡す 純も認め得ず 改めて茲に 前

四、對會社要求願末
尙聯盟幹部の大衆の 壓力利
用した恐喝的行動であつた
指先で蠅を取り出して押し
つぶし蠅は避難するが給仕
は叱らない
(一) 西班牙人
代價を拂つて出でしまふ
(二) フランス人
(三) 英國人
床にビールを打ちまいてポ
ーイお代りと叫ぶが直ぐに
愉快に喋り出す
(四) 獨逸人
蠅を取り出してからビール
を飲む
(五) ロシヤ人
蠅には頓着せずビールを一
緒に飲んでしまふ
(六) 支那人
折角の蠅を捨てるのは惜し
いどうもそうに飲でしまふ
(七) 日本人
先にボーイを呼び出し代價
を払はないうでで行く

各國國民性 コップの蠅

記事を取消しれん盟に深謝
すると共に益々組合運動に
努力挺身せられん事を切望
するものであります

物資の無き道を

考へても見て下さい

さしつかへのない物資を、法律は配給物を意識し、政府はどうかこうにか、横流しした人間には即刻の上で割出して最低のやうな極刑を持つてのぞむべきで、やく息をつくだけの物資を、財産は總て没収貧困者配給して居るのです。の爲めにその全部を保護費常の時とは違ひます、この用とする、之を行はな政物資がみんなの手に公平に府は民主日本の政府ではあ、るもの、死にゆくもの政府です、皆さんしつかりを、より殖すか減すか云ふ事なのです、萬一この物資を誤間化して私腹をこや最悪の殺人鬼と稱して差支へないでせう、こんな人間は變態殺人で名を擧げた小平なぞよりもつとつと悪事な人間だとはつきり言ふ事が出来ず、こんな人間が居ることが解つたなら、どうしませう、大勢がきつと不平を持つて居ます、その大勢と組んで堂々と戦ふんです、民主日本の行手ををばむこれ等は即ち吾れをばむの敵です、われわれはしたる放水場を使用し居り今これ等を精算しなかつたならば第二第三の不幸の起ることは火を見るより明か

見たか聞いたか

内郷町設の水道問題

内郷町では今より三十年以上の水道職工を買収して家庭へなでせう、こんな人間は變態殺人で名を擧げた小平なぞよりもつとつと悪事な人間だとはつきり言ふ事が出来ず、こんな人間が居ることが解つたなら、どうしませう、大勢がきつと不平を持つて居ます、その大勢と組んで堂々と戦ふんです、民主日本の行手ををばむこれ等は即ち吾れをばむの敵です、われわれはしたる放水場を使用し居り今これ等を精算しなかつたならば第二第三の不幸の起ることは火を見るより明か

腕を組んで斯の如き人間を適任者を擧げ直ちに會社で見付て下さい、過去でも現に對し交渉したところ會社でも用捨しないて摘發し社側の申分は從業員の飲料水不足ををぎなはんが爲め町民に水を與へぬと云ふ事、ほんごに住みよい明日町民に水を與へぬと云ふ事、本にしようではありませぬ、か、もう一度はつきり云ひます、政府は人民のための政府なのです、人民の大衆の幸福を計るために人民が設立した政府なのです、斯の如き罪惡なら人民と政府を反省したい

現在の儘捨て置く事相成國民學校より千葉教頭より、今後の文部省の教育方針の、説明が有當局に對する父兄、父兄の質問が有り、其の時、父兄の花澤乙丸、戸田昇の、兩氏より動議提出四倉校の、児童生徒並びに教職員の後、援會を組織したき旨參集者、に計りたる處一同意議無く、座長を推薦花澤乙丸氏座長、席につき父兄間より委員十、名を指名し後援會組織の一、任を受け委員は十月九日午、後一時とし各學級別先生と、の懇談會を開き十二時四十、分懇談會盛會裡に終た

四倉國民實業兩校父兄懇談會

四倉國民實業兩校父兄懇談會、十月八日午前九時より、講堂に於て開催定刻前七百、數名の父兄參集學校當局より、實業學校引地校長よりの、今後の教育に付て説明あり

松村醫院

内科 消化器科 泌尿器科 呼吸器科 皮膚科
福島縣平市白銀町 電話一〇七番

萩野マサ

産婆 電話七八六番

永山洗濯舖

平市大町 舖主 永山眞彦 電話六〇六番

電話新設の御知らせ
平市大町

資物

(公)公定は幽霊か

捜がせども賣店賣人無し

政府いな縣經濟部では青果業が無いは公定は魚類其他諸物資の公定價れいか全く有名無實なる價格表を然かも印刷紙を以て格表を一般國民に示めて地方事務所、警察署或ひは市町村役場より區長區内會長町内會長、部落會長を通じて明らかに發表して居るがさて此官公所より發表された公定の價格を以て物資の販賣店、販賣所は何れに在るか市町村役場より渡された公定價格表を以て本縣に於ける最大長年月に町内會長や部落會長は隣組員に物資の價格を指導され隣組員は悦になつて各商店へ行き公定で青果なり魚類なり買はんとしても買

町民の生活は海より 待望の漁港完成せり

十隻はゆうに入港し尙余のう純々たるもので完成に町民は欣喜雀躍としてゐるが

あるまいか、公定の親としての第一歩たるものな子か兄弟や親族でもあるかど信じて居つたが青果魚の配給價格は丸公定に合致した價格の配給は未だ且つて受けた事ないとの一般隣組の聲だ、して見れば丸公定の販賣店販賣所は日本の國には皆無が唐國にでもあるのか無いとみれば漸々ゆうれいか丸公定販賣店見付けた者は日本一の探偵だ

ま、に成らぬは 浮世の習ひとの 傳説だ

本縣濱通り平市の釜屋と云へば人も知る平市五丁目金物問屋釜屋商店の母親諸橋タニさんは當年八十一歳にして死亡し十月三日葬儀し何ん無く延べの送を済した

明 十分なる信義 友愛協調こそ 現実の世界から

理想の世界への近道である經濟原則を抑へることは出ゼネストも一般大衆に側來ぬ 枝を喰さぬ様にユックリ考へて正しき要求を貫徹さすや政治家の頭の悪いお蔭で、まだ、見合せてある、道徳經濟を忘れたのが今日日本の状態である

が此人は三代目諸橋久太郎 失業者が多くなれば道徳の氏の妻として斯くの如き大廢ることも亦明白である 財産と大商店と切り廻し持 久太郎氏は現在貴族院議員考へて居るのか執るべき政で實弟元三郎氏は兄に代り策が判らねばチイチイバツ諸橋家總計の一切を切り盛と教はることだ、或る田りして現在にあり残す遺産舎の爺さん出先で一泊したは封鎖となり政府が干渉し其の部屋は翌朝一番列車で居るから子等に消費せらで新婚夫婦が来る爲めの豫心配はなし自己は八十一約室だつたそれで翌朝早々出發した爺さん小一里も行つた時に宿に先祖傳來の赤毛布を忘れたことを思ひ出したてく、引返すと新婚の夫婦が部屋に入つたばかりだ宿の主人は云ふ、さて夫婦にかけ合はうにも流石に氣兼ねしてはしもち口説——このかはい、お手手は誰のもの、あなたのかはい、お目々と口は「みんなあなたのものよ」外で爺さんあはて、モシモシその赤毛布だけは私のものですよ

編輯部より…… 各位の御高見をよせられ紙数が日を追つて増加致し一同感謝して居ります、今後もし、積極的に御投書御投稿下さいます様御願ひ致します